

ゼミナール

中国 文化

カラー版

建築編

蔡燕歆「著」

田口 智章 富岡 優理子「訳」



远流传播出版社

ゼミナール 中国文化

建築編

蔡燕歆〔著〕

田口智章 富岡優理子〔訳〕



九州传播出版社

图书在版编目(CIP)数据

建筑：日文 / 蔡燕歆著；(日)田口智章，(日)富冈优理子译著．

——北京：五洲传播出版社，2016.10

(中国文化系列 / 王岳川主编)

ISBN 978-7-5085-3558-6

I．①建… II．①蔡… ②田… ③富… III．①建筑文化—中国—日文

IV．①TU-092

中国版本图书馆CIP数据核字(2016)第244683号

主 编：王岳川

出 版 人：荆孝敏

统 筹：付 平

中国文化·建筑

著 者：蔡燕歆

翻 译：(日)田口智章 富冈优理子

责任编辑：高 磊

图片提供：FOTOE 中新社

出版发行：五洲传播出版社

地 址：北京市海淀区北三环中路31号生产力大楼B座6层

邮 编：100088

发行电话：010-82005927 82007837

网 址：<http://www.cicc.org.cn> <http://www.thatsbooks.com>

印 刷：北京浙京印刷有限公司

版 次：2017年1月第1版第1次印刷

开 本：787×1092mm 1/16

印 张：11.5

字 数：180千字

定 价：108.00元

目 次

序	5
---	---

Part 1	古代の都市	11
--------	-------	----



西安古城の城壁



秦の長城遺跡

都の建設	13
------	----

隋唐の長安城 中国古代の最も壮大な都	14
--------------------	----

明代・清代の北京 皇権至上の代表	16
------------------	----

地方都市	20
------	----

平遥

現存する最も整っている明清の県城	21
------------------	----

重慶

山はひとつの街であり、街はひとつの山である	22
-----------------------	----

蘇州

詩や絵から浮かび上がってきたかのような江南水郷	24
-------------------------	----

軍事防御	25
------	----

城壁	25
----	----

長城	28
----	----

Part 2 皇権独尊32



故宮の角楼

宮殿建築34

壇廟建築40

天壇 祭天における神聖な地40

社稷壇 土地の神と五穀の神の祭壇44

太廟 歴代皇帝の祖先を祭る場所45

陵墓建築47

明十三陵 総体陵区の代表49

清東・西陵 最も完成されている皇帝と皇后
の陵寝群51

Part 3 神の殿堂55



曲阜孔廟の杏壇

儒家建築56

文廟56

辟雍59

仏教建築61

寺院62

塔幢66

石窟70

道教宮観72

仏教の「三身」と道教の「三清」72

イスラム教建築75

内地の回族モスク76

新疆ウイグルのモスク78

キリスト教建築79

Part 4 庭園めぐりの趣83



頤和園の仏香閣

皇室庭園84

避暑山荘 天も地も懐に入る85

円明園 万園の園87

頤和園 最後の皇室庭園88

私家庭園90

Part 5 郷土建築98



民居四合院の福字影壁

北京四合院100

北西地帯の窯洞民居103

徽州の民家105

巴蜀の山地住宅106

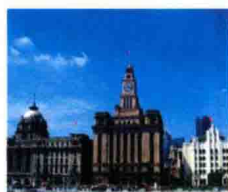
福建の土楼108

蒙古パオ111

新疆の「アイワン」112

チベット族の碉房	113
雲南省タイ族の竹楼	114

Part 6 西から吹く風 近代建築116



上海外灘の近代建築群

上海	118
天津	120
青島	122
大連	124
ハルビン	126

Part 7 自己探求 現代建築132

Part 8 新時代へ向かって135



国家図書館の「回」字
型閲覧ホール

当代建築思潮の発展	137
多元化した建築様式	145
新伝統主義	145
新古典主義	151
新地域主義	154
現代多元主義	157
新環境主義	163
海外建築家の中国における作品	164
香港、マカオ、台湾建築の発展	169

目 次

序	5
---	---

Part 1	古代の都市	11
--------	-------	----



西安古城の城壁



秦の長城遺跡

都の建設	13
------	----

隋唐の長安城 中国古代の最も壮大な都	14
--------------------	----

明代・清代の北京 皇権至上の代表	16
------------------	----

地方都市	20
------	----

平遥

現存する最も整っている明清の県城	21
------------------	----

重慶

山はひとつの街であり、街はひとつの山である	22
-----------------------	----

蘇州

詩や絵から浮かび上がってきたかのような江南水郷	24
-------------------------	----

軍事防御	25
------	----

城壁	25
----	----

長城	28
----	----

Part 2 皇権独尊32



故宮の角楼

宮殿建築34

壇廟建築40

天壇 祭天における神聖な地40

社稷壇 土地の神と五穀の神の祭壇44

太廟 歴代皇帝の祖先を祭る場所45

陵墓建築47

明十三陵 総体陵区の代表49

清東・西陵 最も完成されている皇帝と皇后
の陵寝群51

Part 3 神の殿堂55



曲阜孔廟の杏壇

儒家建築56

文廟56

辟雍59

仏教建築61

寺院62

塔幢66

石窟70

道教宮観72

仏教の「三身」と道教の「三清」72

イスラム教建築75

内地の回族モスク76

新疆ウイグルのモスク78

キリスト教建築79

Part 4 庭園めぐりの趣83



頤和園の仏香閣

皇室庭園84

避暑山荘 天も地も懐に入る85

円明園 万園の園87

頤和園 最後の皇室庭園88

私家庭園90

Part 5 郷土建築98



民居四合院の福字影壁

北京四合院100

北西地帯の窯洞民居103

徽州の民家105

巴蜀の山地住宅106

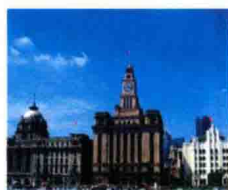
福建の土楼108

蒙古パオ111

新疆の「アイワン」112

チベット族の碉房	113
雲南省タイ族の竹楼	114

Part 6 西から吹く風 近代建築116



上海外灘の近代建築群

上海	118
天津	120
青島	122
大連	124
ハルビン	126

Part 7 自己探求 現代建築132

Part 8 新時代へ向かって135



国家図書館の「回」字
型閲覧ホール

当代建築思潮の発展	137
多元化した建築様式	145
新伝統主義	145
新古典主義	151
新地域主義	154
現代多元主義	157
新環境主義	163
海外建築家の中国における作品	164
香港、マカオ、台湾建築の発展	169

付録：中国歴史年代早見表	177
--------------	----------

序

中国の建築発展の歴史は、古くは鳥や獣・虫がのさばる殷や周の時代（上古時代）まで遡る。韓非子も『五蠹篇』に「有圣人作，構木為巢，以避群害」と述べている。この時代から中国の建築は木造がメインになり、その他にもレンガや瓦や石が木造建築を支えるものとして発展した。中国の古代建築は現代建築の設計の手本になっているだけでなく、古くから世界性の影響が起こり、万人に注目される文化遺産になった。中国の古代建築を鑑賞するのは、あたかも重くてずっしりとした史書を開くようなものである。太古の時代の伝説、秦の皇帝や漢の武帝の偉大な功績、唐の時代の気概、明・清代の宮の煙雲等が感じられる。また、史書のなかの幾多の一般的な労働者たちの聡明で才知な知恵の数々はどうももれているが、この全てが、建築によって生き生きとした記録としてイメージが浮かびあがってくる。

建築の分類からすれば、中国の古代建築には、王室の宮殿や寺院の殿堂、住まいや陵墓の古墳、庭園建築が含まれる。そのうちの宮殿、寺院、陵墓等にはすべて似たような建築形式と全体的な構造方式が採用されて



湖南省・鳳凰古城の俯瞰図。鳳凰古城は比較的早い時期に保存された。明・清の時代に形成された伝統構造と歴史の風貌があり、民家建築は江西や貴州の主流派の建築の特色である。また、この地の経済状況・民族の特色が結びつき、特色のある湖西建築が創造された。

おり、即ち対称的で揃っており、主要なものと副次的なものがはっきりと分かれているのだ。一つの中心線のそれぞれが四合院を貫くことで密閉しているのだが、それが閉鎖的で慎重深く、含蓄のある民族気質を表現している。もしくは、本物の儒家の風格であるとも言えるだろう。庭園建築だけはこれとはまったく異なる。配置が自由で弾力性を兼ね備えており、変幻が尽きず、極力自然との調和を追求している。これは多くの地域に道教の思想の痕跡があったことを示している。

建築の外観から見れば、それぞれの建築はすべて上中下の3つの部分から組み合わされている。上には屋根が、下には基礎が、真ん中には柱と門窓や壁がある。中国古代建築のうちの最も重要な部分は屋根であろう。すべての屋根には優美で傾斜が穏やかな曲線を備えており、廡殿、歇山、懸山、硬山、攢尖等に分けられる。違いは、異なる等級を表している。

中国古代建築の木造構造は、柱や横張および桁等が主要なプレキャスト部材として組み合わされており、



『营造法式』北宋の李誠による著書。中国国家博物館の「古代中国」陳列展にて。『营造法式』は完全なる建築学の著書で、宗元3年(西暦1100年)に書物になり、崇寧2年(西暦1103年)に刊行された。全編36巻で、名前や各種制度、機能や材料等を5つの図式に分けた、当時の中原地区の官式建築の規範である。



2010年の上海万博の中国館のメイン建築である「東方の冠」の写真。巨大な柱と斗組の巧妙な組み合わせが、力を合理的に分布し、整っている建築を穏当に、大気に、壮観にさせている。中国の風格をかなり兼ね備えている。同時に、前方に傾斜している傾いた階段型の構造は、現代建築の力学への一大的な挑戦でもある。

各部材間の結合点はほぞ穴で結合され、弾性に富んだ骨組みで構成されている。このほぞ穴を用いた結合方式は、浙江省余姚のヘムド遺跡では原始時代の建築遺跡のうちにすでに表れており、7,000年以上前にすでに形成されていたことが言える。柱の上や、屋根構造の下には一種の木が縦横に交差し、幾多にも重なり合った組み合わせた部材であるが、これを斗組という。これは中国の代表的な東方建築のすべてに特有な部材であり、骨組みに使われるだけでなく、強烈な装飾効果もあるものだ。

中国古代の職人は十分に木造建築の特徴を利用し、刀・錘・のみ・穴あけ・筆等の道具を活用して直接材料の上に構図や技術加工を施した。それゆえに、中国の伝統建築の装飾の大多数が実用的な価値があり、また構造と緊密に結びついている。もしくはそれ自体が構造や部材の技術加工であるのかもしれない。あってもなくても良い追加品ではない。これらは装飾美を備えているが、更に重要なのは、材料の本質と力学のロジックの結合美にかなっていることが体现されたことだ。同時に、中国伝統の絵画・彫刻・書道・色彩・図案や紋様等の異なる技術が建築の装飾に応用されており、建築技術の表現力を強化した。中国古代の建築技術において、建築装飾は重要な表現手段の一つである。

古代中国の封建社会においては、統治者の地位にいた儒家思想の「礼」を以て基本の枠組みとしたが、制度規範を用いた各種等級というだけである。これはとても自然に建築およびその装飾技術の営造に浸透している。建築における一切の装飾は「それを求める観念」のためにとどまらず、「貴賤を弁別する」ためでもある。建築の類型や規模の大小、装飾のデザイン・色彩・品質・題材等の全ては建築の社会機能に服従しており、建築の社会価値の重要な手段であることを示している。

建築技術は一定の社会条件と自然環境下で生じ、発展し、形成され成熟するゆえに、その時代・その地域の烙印が必然的に押されている。時代の発展は主にスタイルや題材の内容・工芸手法上の絶え間ない改革と創造を反映している。つまり、地域間の格差は大きなレベルで自然環境

と気候の差に由来する。この他にも、中国は一つの多民族国家であり、技術の風格においても各民族の伝統的な装飾を用いて特色が出ていて、豊富な民族の気性を含んでいるのだ。

中国の古代文化学術の歴史においては、「建築学」は然るべき地位を得ていない。主に無数の無名の職人が代々伝えあい、苦心惨憺と中国の伝統的な建築技術を創造してきた。多くの王朝時代には決して独立した専門的な学問としてみなされず、全面的に系統だった建築として形成されなかった。幸いにも、文学作品中には多くの都市或いは建築が題材になり、これらの作品は一方ではその時代の都市と建築営造の高まりが反映され、他方でも当時の都市の建築の容貌が描写されている。歴代の都の宮殿建設や重大な建築物の計画、主管部門の役人や職人の伝



北京の故宮の太和殿の上にある陶製の仙人走獸、およびその図解。中国ではかなり多くの古代建築のわかれめ（通称：岔脊）には、すべてとある動物が装飾されている。その列の先頭は、鳳凰に乗っている小人であり、「仙人」と称す。その後ろからは獣が並び、一番後ろには比較的大きな獣がいるが、これは「垂獸」と称される。仙人と垂獸の間の獣は総称して「走獸」と呼び、それぞれの獣にはすべて名前が付されている。この並びは厳格な規定があり、数量がいくつかは宮殿の大きさ、建築の等級で決められた。故宮の太和殿は中国古代建築のなかで、唯一 10 個の走獸が並んでいる特殊な例である。

記等についても、かなり多くが各種の正史や古代の書籍に散らばっている。わずかではあるが、建築家が記した専門書も広く伝わっている。極めて稀ではあるが、私たちに古代建築の营造の全体の一部分をのぞかせるものである。

中国古代建築の設計と現代の設計構造はとても似ている。建築家と建築を計画する責任者はみなとても当代或いは前代の建築物の調査研究を重視し、通常は模型を制作し図面をつくる方法を総合的に採ることで設計をすすめた。中国建築の職人は長期的に実践するなかで立体感に富んだ図法（現代のアイソメ図に似ている）を創造し、施工を指導した。漢代（紀元前 206 年～西暦 220 年）後には、「建築設計図」や「説明文章」が取り決められ、すでに大型建築計画に欠くことができぬものになった。10 世紀中頃までには、建築において図を用いることはすでに非常に成熟した段階になっていた。

周代（紀元前 1046 年～紀元前 256 年）の「冬官（周代の六官の一人）」から清代（西暦 1616 年～1911 年）の「算房」や「様房」までの二、三千年もの間、中国はずっと専門的な建築部門や官僚が建築の設計や施工および建築材料の配分等の仕事はすべて存在しなかった。まさしく、これらの公的な機構の仕事は労働力や材料の生産や運送の組織効率をとっても高い水準にあげた。中国古典建築の中心的な内容の一つである「標準化」と「模数化」の実施と普及をすることができた。

近現代の時期においては、封建制度の解体や欧米諸国の文化の東漸、現代社会科学技術の発展および現代人の美術への理解や文化心理の変遷につれて、20 世紀の中国建築は比較的大きな形態的な相違が生まれ、大量の中国と欧米の文化対照の公共建築が現れた。とりわけ、1978 年の改革開放後には、都市の風貌の変革は更にすすみ、建築スタイルも更に豊富に様々なものになった。目前には、時代のスタイルと民族スタイルの有機結合を探しもとめることが、中国現代建築の重要な課題だ。

この本は、まず先に中国古代の各種の主な類型の伝統建築の特徴と発

展過程をわけて紹介する。その後、簡単に近現代の中国建築の入り組んで複雑な歷程を叙述し、最後に当代の多元的な建築類型と発展を分析し、興味のあるみなさんに比較的整った形で中国建築の容貌を明らかにできるであろう。